

小国地域委員会「第1分科会」活動報告書

平成29年2月15日

小国地域委員会第1分科会長 山岸 誠

1 検討課題

当第1分科会は、「少子高齢化における、若者等の定住促進対策」についてをテーマに検討してきました。

テーマが大きいため具体的には、①若者（子育て世代を含む）の定住と、現在住まわれている人たちの流出抑止のための方策の検討、②はなのか団地に住んでもらうための方策の検討に絞って活動、検討を行いました。

2 検討の経過

(1) 小国地域への移住者の声を聞く

実際に小国地域へ4人の子供と移住した家族に、移住しての感想等を聞いた。

ア 移住当時は子どもがたくさんいて活気があり、子どもたちにも良かった。

イ 祖父母はいなかったが、集落の人が子育てを助けてくれた。

ウ 子どもたちも穏やかで、学級崩壊等が起こりづらい環境にあると思う。

エ 高校への通学の交通確保が難しく、送迎が親の負担となっている。

オ 集落に保護者が少なくなり、役員等の負担が大きい。

カ 小国に移住することでの雪は魅力に思っている。

キ 子育て世代の移住には、仕事と通学がネックになると思う。

(2) はなのか団地居住者へのアンケート調査の実施。(別紙参照)

はなのか団地に住んでいる10世帯にアンケート調査を実施。

ア 世帯主の年齢は、30歳代が最も多く、次いで60歳代、20歳代・40歳代・50歳代。

イ 同居の家族は、30代が8人と最も多く、小中学生・70歳以上が6人、未就学児が5人、40代が4人など若い世帯が多い。

ウ 購入の理由は、元々小国に住んでいて、小国から出たくなかったが最も多く、次いで購入価格が安いから、両親・祖父母が小国に住んでいるからなど。

エ 住んで良かったこととして、日常の買い物が便利、自然環境が良い、通勤・通学に便利など

オ 住んで不便な点は、医療機関が不足している、公共交通機関が不足している、冬期間の雪の排雪場所に困るなど。

(3) 若者の定住と、現在住まわれている人たちの流出抑制のための方向性を検討。

ア はなのか団地を核として移住、定住の促進に繋げる。

イ 今後増える空き家を活用して移住、定住の促進に繋げる。

(4) 小国地域の移住・定住を進めるための3本柱【ステップ】の設定。

【ステップ1】

「まず、小国地域を知ってもらう」

【ステップ2】

「きっかけづくりのお試し体験」

【ステップ3】

「背中を押す支援事業等」

3 具体的な推進の方向性

移住者から小国地域の人柄や集落の特徴、雪に対して不安ではなく魅力などの話を聞き、はなのか団地に暮らす世帯の調査結果などから、次の3つの【ステップ】により、移住者の増に繋げ地域の活気を高め、流出しそうな若者の小国地域への定住促進と、現在住まわれている人たちの流出抑制が図られると考える。

【ステップ1】

「まず、小国地域を知ってもらう」

小国地域を知ってもらうための情報発信の方法と媒体を検討した。

(1) 情報発信のためにターゲットの選定

ア 全国の方々を対象に広く小国地域の情報を発信する。

【特に力を入れるターゲット】

イ 東京小国会の2世、3世の方々

親、祖父母の故郷に興味を持ってもらい、移住に繋げたい。

ウ 友好都市の武蔵野市民

友好都市交流を通じて、小国地域の魅力を発信し、移住に繋げたい。

エ 小国地域内の住民

集落ごとに首都圏の同郷団体との交流があり、情報提供が容易であること。

また、集落から小国地域外への転出を防ぐためにも情報を提供する。

(2) 情報発信媒体の選定

ア ビデオ、DVDを作成配布する。

イ ユーチューブで情報発信する。

ウ 小国地域の各団体のホームページに情報掲載を依頼する。

エ 地域内窓口に配布用チラシ、パンフレットを設置する。

(3) 情報発信の方法、内容

ア 地域内の企業紹介と合わせて情報発信する。

- イ 小国地域が長岡中心市街地から遠いイメージを払拭する資料も一緒に発信する。
- ウ 小国地域のイベント、特徴、自然環境などの情報も一緒に発信する。
- エ 農業、除雪作業などの魅力も一緒に発信する。
- オ 総合窓口を設置し、移住・定住・空き家など情報のワンストップ化を図る。
- カ 各世代で求める情報が違うため、インターネット検索など必要な情報にたどり着けるような情報発信をする。
- キ トレラン、雪上エンデューロ等のイベント参加募集と一緒に情報を発信する。

【ステップ2】

「きっかけづくりのお試し体験」

小国地域移住のきっかけづくりとして、短期間のお試し居住や、地域内の視察メニューなどを検討した。

(1) 長岡市の支援事業として体験メニューの実施

ア 短期間のお試し居住

小国地域内での移住・定住促進と地域の活性化を合わせた取り組みとして、移住希望者や、おぐにトレイルランニング大会時のゲストハウスなど地域内の空き家や、集落施設を利用し地域と連携した事業を実施する。

イ 日替わり体験メニューの実施

いくつかの体験メニューを作成し、長期滞在出来ない方やお試し感覚の軽い気持ちでの参加者が、何回か体験を繰り返すことにより小国地域に興味を持ってもらい、移住・定住に繋げる。

(2) 地域内の視察メニューの実施

さらに軽い気持ちでの小国地域探検ツアーなど、小国地域の魅力に触れてもらい、お試し居住や農業・除雪体験などに繋げ、移住・定住のきっかけとしてもらう。

(3) ボランティア参加者へ小国地域の紹介

ボランティアで小国地域を訪れる方々に、移動時の車内や休憩・昼食時に小国地域の魅力を紹介することで、小国地域に興味をもってもらい、移住・定住に繋げる。

(4) トレイルランニング、雪上エンデューロ大会等の参加者へ小国地域の紹介

各種大会で小国地域を訪れる方々に、交流会・パネル展示など、小国地域の魅力を紹介し、実際に大会の中で魅力を感じてもらうことで、移住・定住に繋げる。

【ステップ3】

「背中を押す支援事業等」

移住・定住に対する補助制度の拡充・新規提案等の検討。

(1) 補助制度等の拡充・新設等

- ア はなのか団地への移住・定住の起爆剤となるような価格の設定。
 - ・報道機関を利用して、抽選で格安価格の販売区画を宣伝し、話題性により小国地域をアピールする。
- イ 合併地域の過疎又は、中山間地域の特別措置としての限定対応。
 - ・移住者へ転入補助金を支給する。
 - ・移住者の税・各種加入金等を減免する。
 - ・移住者へ一定期間の交通費を支給する。
 - ・移住者への利子補給制度を実施する。

(2) はなのか団地を小国版コンパクトシティとしてモデル的に整備。

- ア 個人住宅スペースと集合住宅スペースに分けて整備する。
- イ 市営賃貸住宅（若者向け車庫付高床やシニア向け低層など）を整備する。
- ウ 個人住宅スペースには、定期借地権設定区域も設ける。
- エ はなのか団地周辺への商店、食堂などを誘致する。
- オ 話題性のある名店を誘致し、広告棟とする。
- カ 商業施設に対して何年か減免などの優遇措置をする。
- キ 廃校とのコラボレーションを模索する。

(3) 公共交通網の整備・維持。

現在の公共交通網の維持とコミュニティバスとの接続を検討する。

(4) 国、県道や市道の整備・維持。

国、県道の拡幅や施設整備、市道消雪パイプの整備・維持を進める。

4 おわりに

当第1分科会では、「少子高齢化における、若者等の定住促進対策」について、移住・定住を進めるための3本柱（ステップ）を設定して進めることにより実現したいと考え提案します。

今後、長岡市において実施可能な政策について検討いただき、小国地域の移住・定住の促進と地域の活性化に繋げていただくことをお願いいたします。

小国地域委員会「第2分科会」活動報告書

【テーマ】 小学校統合後の上小国小学校及び下小国小学校の空き校舎、跡地利用について

1 検討の背景

平成29年4月に開設する長岡市立小国小学校に伴い、廃校となる長岡市立上小国小学校と長岡市立下小国小学校の活用について、どうあるべきか地域課題として浮上しました。

小国地域委員会でもこの課題に取り組むべき、分科会活動のテーマとして取り上げ、検討することとしました。

分科会活動では第2分科会が担当し、当分科会は広く住民の意見を聞き反映させるため、総代連絡協議会を始め、各種団体から意見を聴取することとしました。

地域住民から多様な意見を聴取するにあたり、小国地域では何が足りないか、何に注目し実現すれば小国地域の将来に向けた発展が期待できるかを検討してまいりました。

2 分科会活動の状況

第2分科会では、平成27年度に資料収集や外郭団体との協議を含め、4団体から意見集約の御協力をいただきました。また、平成28年度には、引き続き広く住民の意見をお聞きするため、住民団体や将来の小国を担う中学生の意見を聴取する機会を得て、取りまとめを行いました。

3 空き校舎の利用形態

各種団体や地域住民の意見を集約すると次のような施設の活用を望む地域住民の方向性が確認できました。

(1) 上小国小学校

上小国地区の住環境や校舎の利便性から宿泊施設として活用する方向で検討を進めていただきたい。

住宅に改造する場合は、ディサービスやショートステイができる介護支援可能な施設や、子育て支援住宅、シングルマザー等を受け入れる住宅として活用したい。

宿泊施設に改修する場合は、農業研修施設やスポーツなどの合宿所、海外研修生の受け入れ、更に、東京小国会や小国を故郷に持つ方々の宿泊施設として活用したい。

校舎が大きいことから上記の複合施設として活用したい。

(2) 下小国小学校

道路交通網等の利便性から商業施設や道の駅などの活用が図られる方向で検討を進めていただきたい。

小国の特産品のPRや発信の場とすることや地元の山菜、野菜の販売、加工ができる施設として整備し、加えて農家レストランや喫茶コーナーを設け、地元住民を始め市外からの誘客確保に活用できる複合施設としていただきたい。

下小国小学校児童は、独自の活動として「未来の下小を考える」をテーマに総合学習で学んだ

成果を、下小国小学校閉校記念式典や小国地域委員の集まる席で発表していただきました。

地域委員会で検討した方向性や考え方が同一であるため、下小国児童の意見反映を期待いたします。

(3) グラウンド

グラウンドの活用については、動物を飼育することや野菜づくり、物作りなど産業おこしと多岐にわたる意見をいただいているところですが、建物に付随する複合的に活用できる施設として検討することが望ましいとしました。

4 おわりに

当分科会ではより多くの地域住民の意見をお聞きすることが、地域要望をまとめる上で重要と考え活動してまいりました。

今後は長岡市において、小国地域住民が注目している空き校舎の有効活用について、地域住民に情報提供をいただきながら詳細をまとめていただきたくお願い申し上げます。